



池田咲良さん・華穂さんと愛犬のさすけ。

特集 命を扱う

とつこと

問い合わせ先
環境政策課

☎ 23・3098

松江保健所動物愛護推進課

☎ 0852・61・8875

この世に生まれてきた動物たちは、私たちと同じように命があります。飼い主と一緒に遊んで楽しんだり、嫌われ者として悲しんだりもします。

動物が好きではない人の行動が問題視されることが多いですが、一方で、動物を飼っている人の飼い方が問題となるケースもあります。今号では、動物の「飼い方」に注目して、動物とどう向き合おうかを考えます。

9月20日～26日は
動物愛護週間です

 飼い主の元へ
帰れるように

誰しも幸せな一生を送りたいもの。それは、犬や猫などの動物も同じです。近年、犬や猫が正しい飼い方をされておらず、近隣トラブルになったり迷子になっていなくなったりするという問題が起きています。「動物愛護」というと動物虐待などに目が向けられがちです



ポイント

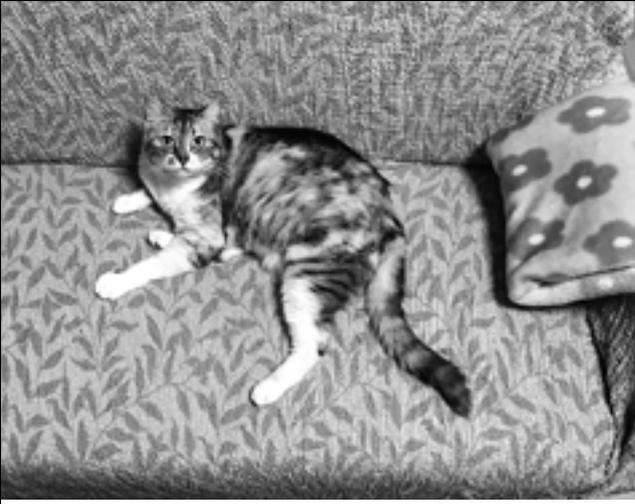
- 犬
 - ・ 飼い始めたらず登録
 - ・ 年1回は狂犬病の予防注射を受ける
 - ・ 鑑札と注射済票は装着の義務がある
 - ・ しつけをする
- 野良猫
 - ・ 安易にエサをやらない

が、動物の「正しい飼い方」という点にも目を向けて、動物たちが周囲から嫌われないようにすることも大切です。

「正しい飼い方の1つに所有者明示が挙げられます」と話すのは、にやるま堂（松江市）の御堂幸子さん。犬・猫用の迷子札を手作りして無料で配る活動を平成27年から続けています。御堂さんは、動物が殺処分されている現実を知り、自分に何かできないかと考えるようになったのがこの活動のきっかけだと言います。

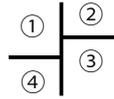
そして、「首輪がついた犬・猫も多く保護されており、そのほとんどが飼い主が分からず家に帰れないということを聞きました。そこで、迷子になっても家に帰れるように迷子札を普及させたいと思い、今の活動を始めました。」





当たり前前に 考えるように

動物を飼うという選択をした人は、その動物の「命」を扱う責任があります。
「安易に飼わない・増やさな



①猫は室内飼育が基本です。外から病気をもらったり家からいなくなったりすることを防げます。近隣の人への配慮もでき、トラブルを減らすことにもつながります。②③御堂さんが作成する迷子札。飼い主の連絡先や住所などを書くようになっています。サイズは大・小とあり、首輪につけても窮屈にならないようにしてあります。④保健所で保護されている犬。人に慣れていない犬は部屋の隅に集まります。大きくなるまでに人に触られた経験が全くない場合、人を危険なものとして認識して近寄らなくなります。こうした犬は、長い時間をかけて人が飼えるようになるまで保健所で大切に育ててから譲渡されます。

いこと。動物を迎えたら最期まで世話をする。所有者明示をすること。この3つを当たり前のことと考える飼い主さんが増えることで、つらい一生を過ごす動物が減り、また、近隣の



会いに来てニャ

「来て・見て・さわって 動物愛護！！2019」

日時 9月21日(土) 10時～15時30分
場所 いきいきプラザ島根 第2駐車場・
動物管理棟(松江市東津田)
内容 犬猫譲渡会、猫ふれあいルーム、ス
タンプラリー等
※迷子札の無料配布のブースがあります

人とのトラブルも減ると信じています」と思いを口にする御堂さん。松江市在住ですが、3年前からボランティアとして安来で行う狂犬病予防注射の手伝いに参加。同時に会場で迷子札着用を呼び掛けています。
「お金をかけてまで迷子札をつけようと思う飼い主さんが少ないのが現状です。なので、私は無料で配ることにしています。必要性を話すことと理解してくれる人は多いです」。
人間の都合で寂しい一生になる動物はまだ多いです。ルールやマナーを当たり前のこととしてできるかどうか。これが動物の一生を左右します。



松江保健所
動物愛護推進課
永海課長

保健所では、迷い犬の保護や野良猫問題の相談、犬・猫の譲渡などを行っています。これらは、ボランティアの方のおかげで運営ができています。多くの人にこうした方々の思いが届けばと願っています。
現在は、動物愛護の観点から昔ほど「殺処分」という措置は少なくなりました。しかし、猫のフン害など、人の生活に被害を及ぼすものの相談は多い状況です。犬・猫は、不妊や去勢手術を行い、まずは増やさないことが解決への第一歩です。また、これらを行うことは、動物のためだけではなく、周りの人のためにもなります。「動物愛護」とは動物が好きではない人への配慮も含みます。動物が好きなのもそうでない人もお互いが相手の気持ちに歩み寄ることが大切です。

